

「アジア・パレルものづくりネットワーク」設立7周年記念シンポジウム

内閣府認証NPO(非営利組織)法人アジア・パレルものづくりネットワーク(AAP、小島正憲代表理事)は設立七周年記念のシンポジウムを先月十二日、都内で開き、予定を大幅に上回る二百六十人が参加した。AAPは一年七月の発足で、現在会員は五十四社。ASEAN(東南アジア諸国連合)・南アジア、中国に進出している縫製企業や、生地・副資材、機器・システム、物流などアパレル生産に関連する企業が加入している。今回のシンポジウムはアジアに広がった会員の生産背景や企業努力などを紹介するのが目的で、基調講演をジェトロ(日本貿易振興機構)海外調査部アジア大洋州課長代理の小林恵介氏が「チャイナ・プラスワンの現状とこれから」をテーマに行った後、「アジアのアパレル生産新時代を担う」をテーマにパネルディスカッション。第一部でベトナム、ラオス、カンボジア、第二部でミャンマー、バングラデシュ、インドネシアのアジア各国に進出している会員企業が最新の現地状況を報告した。共通質問で行われた第一部・第二部を合わせて概要を紹介する。